

沖縄での米兵による女子中学生暴行事件に抗議します

私たちは、2月10日沖縄北谷町で、またも米兵による少女暴行事件が引き起こされたことを、満腔の怒りをもって抗議します。

今回の事態は1995年の少女暴行事件を思い起こすものです。二度とこのような犠牲を繰り返さないために、県民が事態の打開を求め総力で取り組んだ結果、米軍の綱紀肅正が叫ばれ教育プログラムを徹底したはずですが、しかし現実には、事件が起きるたびに抗議を繰り返しても一向に改善されてこなかったことを証明しています。改めて激しい憤りを抑えることができません。

米軍基地がおかれて60年以上、沖縄をはじめ基地に隣接する地域で米兵による暴行事件が繰り返されてきました。とりわけ被害者が女性、少女の場合は、表面化を恐れて泣き寝入りしたり、あるいは日米地位協定に阻まれて事件が闇に葬られることもあり、今回の事態は氷山の一角でしかありません。

私たちはこれ以上、基地による被害、とりわけ女性の人権を蹂躪する性犯罪を絶対に許すことはできません。遡れば、かつて日本軍においても従軍慰安婦が存在しました。私たちは、軍隊における性暴力の問題については、責任ある政府が確固たる態度で臨むことが求められていると考えます。基地や軍隊の存在自体が、人間性を剥奪しなければ成り立たない戦闘行為を前提にしたものである以上、基地がある限り、同様の事件を根絶させることは不可能です。

私たちは、このような事件を二度と起こさないために、日米両政府に対し、被害を招いた当事者としての反省を求めるとともに、必要なあらゆる措置を講じることを強く求めます。

そして、日本国憲法に基づく恒久平和の実現と基地の撤去に向け、現在進めている米軍再編および日米安保を含めた在日米軍基地の根本的な見直しを求めます。

2008年2月18日

戦争を許さない女たちのJR連絡会

東京都品川区西五反田3-2-13 JR総連内